

マテリアリティ

東洋紡グループは、ステークホルダーの要請・期待に応え、当社グループのめざす姿「人と地球に求められるソリューションを創造し続けるグループ」を実現するため、マテリアリティを特定し、事業活動を通じて、さまざまな取り組みを推進しています。

東洋紡グループのマテリアリティ

当社グループのマテリアリティは、2020年5月に特定したものをベースに「サステナブル・ビジョン2030」を踏まえて見直し、現在に至ります。

ステークホルダーにとっての影響度と当社グループにとっての影響度の2軸から、優先度の高い目標を明確にし、「事業を通じて社会課題解決に貢献する」「人的資本」「環境・モノづくり」「事業基盤」の4つの領域に整理しました(下図参照)。

マテリアリティ特定のプロセス

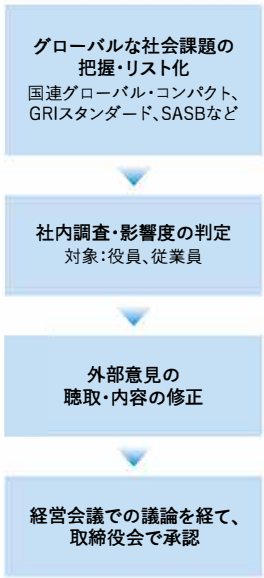
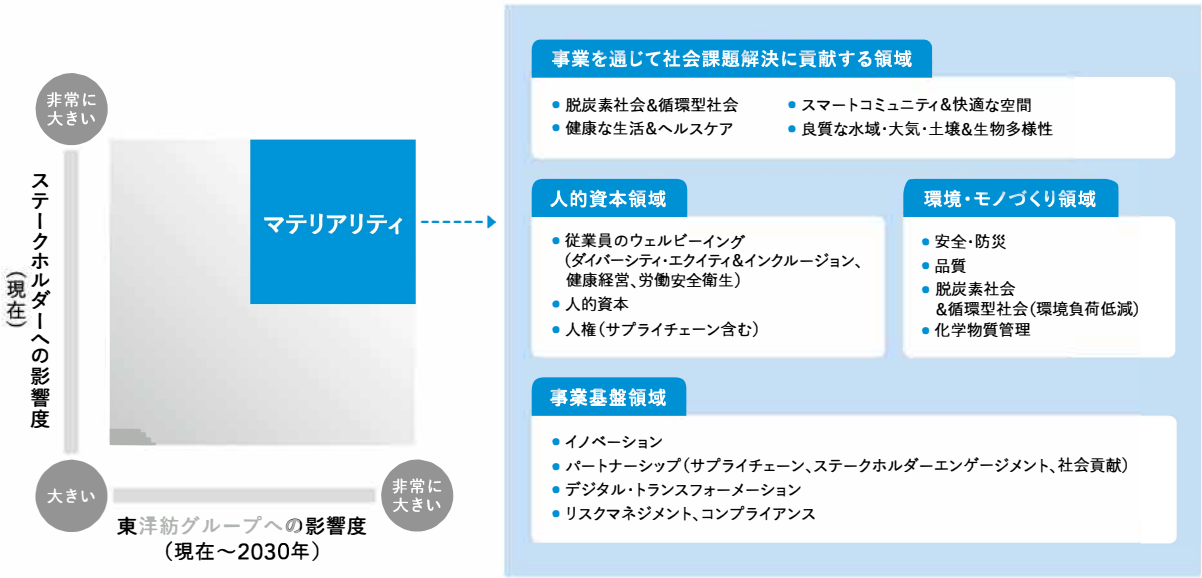
外部イニシアチブやGRIスタンダードをはじめとする12の国際的なガイドラインなどを参照し、候補となる項目を選定しました。これらの項目の正・負のインパクトについて、社内アンケートやヒアリングなどを通じて明確化し、機関投資家など外部意見も取り入れながら、最終的には取締役会の承認を経ていきます。

今後は、外部環境および経営方針に応じてマテリアリティを継続的に見直していきます。

マテリアリティ指標の管理(PDCA)

マテリアリティに関する取り組みを確実に進捗させるため、マテリアリティごとに担当役員を決定し、併せて目標・指標を策定しています。これらの進捗状況は、2カ月に1回開催しているサステナビリティ委員会において都度報告・共有し、継続的な取り組みの向上に努めています。なお、同委員会における議論内容については、必要に応じて審議結果を経営会議を通じて取締役会に報告・付議しています。

マテリアリティマップ



TOPICS

中期経営計画に連動したマテリアリティ指標の見直し

当社グループは、2030中期経営計画の策定を踏まえ、2026年度以降のマテリアリティ指標を見直しました。経営戦略との連動性と進捗管理の実効性向上の観点から指標の最適化を図り、「サステナブル・ビジョン2030」の実現に向け、ありたい姿からのバックキャストにより再設計しています。今後は、これらの指標を通じて戦略の進捗を可視化し、ありたい姿の実現を着実に推進していきます。

見直したマテリアリティ指標はこちら